

とおかまち

Public Relations

市報



1 2014
/10

平成26年 1月10日号

No.211



北原保育園から
「良い年になりますように!」

主な内容

- 1 ●新年のごあいさつ
- 2 特集① 新春対談(北川フラムさん×市長)
- 10 特集② こへび隊・地元サポーター募集
ピックアップニュース
- 12 ●十日町雪まつり追加情報／小中一貫教育④
- 14 ●まちづくり基本条例④／高齢者憩いの家紹介
- 連載コーナー①
- 16 昭和のとおかまち／元気予報／キラメキワークス
- 18 お知らせ・ガイド
- 連載コーナー②
- 22 熱中・夢中／和顔愛語／イクメンカジダン
- 24 ジュニア芸術祭

さらなる飛躍の年に

十日町市長 関口芳史

年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。市民の皆さまには、日ごろより市政運営に特段のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、昨年は市長2期目を迎え、市発展に向けてこれまでの成果を検証し、更なる充実を図ることを決意いたしました。

私が目指す「選ばれて住み継がれる十日町市」の実現に向けて、1期目は市民の皆さまからご意見をお伺いする中で、保育料の軽減や子ども医療費を18歳到達年まで拡充助成するなど、県内でもトップレベルの子育て支援を実施するとともに、高齢者施設の増設や障がい者の雇用増加の促進、そして交通空白地解消など「人にやさしいまちづくり」を進めてまいりました。

特に、共生教育の理念に基づき、全国に先駆けて開設した十日町小学校・ふれあいの丘支援学校・発達支援センターの複合施設「夢の学校」は、ご視察いただいた下村文部科学大臣から「十日町方式」として

称賛をいただきました。併せて、当市の財産である国宝火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台のデザインに採用していた、たくようお願ひできましたことも光栄に思っています。

また、「活力ある元気なまちづくり」においては、「大地の芸術祭の里」ブランドを確立し、年間を通して多彩な企画を実施して十日町市のファンの拡大を図るとともに、市内のがんばっている企業に支援をすることで、地域経済の活性化と雇用の拡大に結び付けることができました。加えて、新十日町病院の建設計画による改築工事が始まるとともに、休日救急診療の川西診療所での実施など「安全・安心なまちづくり」も着実に前進してまいりました。

さらには、長年の課題であった、中心市街地の活性化に向けた基本計画が内閣総理大臣の認定を受けたことにより、民間事業を含めて今後5年間で50億円もの事業が行われるとともに、NPOなどの市民団体の活動も活発に行われ、官民一体でのにぎわいのある中心市街地づくりが始まりました。

そして今年、私が市長就任以来検討を重ねてきた市道などの除雪に住民負担を求めない新たな除雪制度の開始や小中一貫教育の全中学校区における本格実施、消防本部新庁舎建設や情報化の整備が進められるなど、将来の十日町市のために計画を立ててきたことが形となって現れてくる年となります。

また、今年は中越大地震から10年になります。そして、近年立て続けに発生した豪雨などの相次ぐ災害からの復旧もほぼ完了します。多くの犠牲のうえに学んだことを生かし、「命の道」である上越魚沼地域振興快速道路をはじめとした生活基盤の整備を促進するとともに、防災・減災に向けた体制を整備してまいります。

一方で、市の基幹産業である農業については、国の新制度のもとに今後は大きな変革期を迎えます。魚沼コシヒカリのブランド力を高め、中山間地域を含めた農業の維持・発展を進めるためにも、生産から流通・販売まで一連の支援を行い、農家所得の向上を図ってまいります。

信濃川の水問題についても、これまでの試験放流の検証結果を見極め、河川環境との調和や人と地域と川が共生できる信濃川の姿に向けて対応してまいります。

そして、これらの施策を確実なものとするために、さらなる行財政改革と知恵を生み出す市役所づくりを進めることで、市民サービスの充実を図ってまいります。

さて、当市では、自分たちの住むまちの魅力を再認識し、住民自らの手による活性化の動きが活発になってきています。また、トオコンによる大学生の事業化提案やとおかまちプロモーション大使に市外の方64名から登録いただき、当市の情報拡散が幅広く行われるなど、市外の若い人たちもさまざまな応援をしてくれています。これらの新たな視点での取組みを生かし、当市を訪れてきた多くの方々が移住・定住してくれる施策を実施しながら、里も山も元気な十日町市を創ってまいります。

今の十日町市は、「まちづくり」という大きな石が、多くの人たちの力により、ひとつの方向に向けて動き出した状態だと思っています。さらに勢いを加え、未来に向けて大きな動きとなるよう、皆さまも共に参加してください。

結びに、本年が市民の皆さま一人ひとりにとりまして素晴らしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。新春のあいさつといたします。

年頭のご挨拶

新春対談

市長対談
第5弾

大地の芸術祭総合ディレクター

十日町市長

北川フラム×関口芳史

ECHIGO-TSUMARI
ART FIELD大地の芸術祭の里十日町市
21世紀を牽引する地域に！

第1章

世界から注目される存在に成長した
大地の芸術祭・越後妻有当初の議論・激突が越後妻有の
大きな財産に

十日町市に魅力を感じてくれる人に関口市長がお話を伺うこの恒例企画。市長が公務先でいろいろな人とお話しする機会がある中、「十日町市はすばらしいね」と言われることがたくさんあります。そのような人の声を市民の皆さんに紹介し、外から見た十日町市の良さや魅力をお伝えします。

今回のお相手は、大地の芸術祭総合ディレクターである北川フラムさん。北川さんは平成12年から始まった大地の芸術祭当初から継続してこの地域に関わり、地域を熟知している一人です。今回の対談で、次回以降の展望について新たなヒントも生まれました。※文中敬称略

市長―第5回展では、49万人が訪れ、回を重ねるごとに人気を博していることがうれしいです。全国でも多くの自治体がまちづくりの手法として実践するようになりましたが、先進地として相当な苦労があったのではないですか。

北川―当初、議員や地域の皆さんの多くが反対でした。今、例えば「アートでの地域づくり」という手法は理解しづらかったのは当然

でした。そういう状況でしたので、丁寧に説明して対応することで、しつかり進めてきました。今となつては当初の議論や激突が大きな財産となっています。

市長―「現代アートはよく分からない」と言われます。でも、大地の芸術祭のいいところは、作品を道しるべに地域内を回ること、その魅力に直接触れることができることではないかと思うのです。作家は地域に融合した作品を作っていて、地域の魅力を一層引き出してきていますね。



北川 フラムさん Fram Kitagawa

1946年新潟県生まれ。東京藝術大学卒業。「アントニオ・ガウディ展」、「ファレ立川アートプロジェクト」などをプロデュース。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、「瀬戸内国際芸術祭」では総合ディレクターを務める。

北川―作家の多くが初めて里山を訪れる人で、新たな発見からいろいろな特色を生かして作品を作っています。それらの作品をたどって地域を巡ることで旅のかたちを作り出していて、それも楽しみの一つです。芸術祭に訪れる皆さんが、この地域で開催されている芸術祭の魅力を分かってくれるようになり、応援してくれる人もだんだん増えてきました。当初、大反対した皆さんの反応も変わってきて、私の「越後妻有の地域づくりに心から関わってほしい」という思いも理解してもらえたのではないかと思います。今では、新たなプロジェクトも展開して、大きな広がりを見せてきています。

里山にある芸術作品が地域の創造につながっている。妻有からの動きです―北川

北川―市外の多くの力強いサポーターが応援してくださるように、現実的に越後妻有の取組みが理解されています。ここは、中越大震災だけでなく、水害や大雪などさまざまな災害を乗り越える過程で地域力が育まれてきました。「厳しい環境でも前に進んでいる妻有での大地の芸術祭の動きが、日本、ひいては世界全体のモデルになるのではないか」そう思われ始めています。どこの国も、環境や地域が厳しくなってきたりいるなかで、この期待は今後とても大きくなると感じています。

第6回展は、世界から越後妻有の取組みを学びに相当な数の人が来訪すると予想しています。

越後妻有の地域力。世界のモデルに

市長―芸術祭でのまちづくりをさまざまな機会で発信しています。が、ぜひ、より多くの市民・市外の皆さんから関わってほしいと思います。実際に大地の芸術祭・越後妻有はどのような評価なのでしょうか。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」とは「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」を目指して、平成12年から3年に1度、越後妻有地域（十日町市・津南町）で開催してきた世界最大規模の国際芸術展です。平成6年、十日町地域として県の政策「ニューにいがた里創プラン」の地域指定を受けたことをきっかけに、「越後妻有アートネットワーク整備構想」が樹立された中で進められました。

「人間は自然に内包される」を基本理念に、約760平方キロメートルの広大な土地を美術館に見立て、屋外や空家・廃校などに、世界中のアーティストと地域住民とが協働制作したアート作品を多数展開しています。



草間彌生「花咲ける妻有」(Photo by Osamu Nakamura)

第2章

越後妻有の魅力を引き出すには。今あるものを武器に

空家・廃校を生かした取組みが特徴的。不動産美術で地域の創造につなげたい

市長―大地の芸術祭で特徴的なのが、地域にある空家や廃校を活用した作品だと思います。そこにあるものを捨てずに生かして新たな価値を作りだしているところもあります。これは、地域づくりにも大きな効果を発揮していますね。

北川―アートの観点では、ここ250年くらい、動産美術が主流となり、作った瞬間に1億円で売れるなどしてきましたが、それが限界になってきました。移動できない、売り買いできない不動産美術へ評価が代わってきています。また、都市型美術館のように箱の中にあるものでなく、地域に設置して場とながることで、地域の創造に結びついています。このことが本来の美術の在り方だと私は考えています。が、この動きは越後妻有から始まったのではないかとされています。

アートを道しるべに地域めぐりをすることで地域の魅力を感じてもらえます―市長

里山は、作品めぐりで地域を見てもらう仕掛けができましたが、市街地でもその特徴を生かした見せ方ができるのではないのでしょうか。例えば市街地の中から外部を見る設えとか、ビルの屋上から鳥瞰的に市街地を見せる工夫など、見る場所に鑑賞者を誘うことで新たな発見にもつながるように思います。

いま市内では、まちづくりをやりたいという若者のパワーが研ぎ澄まされてきました。そのパワーと共に中心市街地の活性化をがんばろうと考えています。ぜひアートの力でも盛り上げてほしいです。

北川―はい、考えてみます。そのような人たちが前に出てきてほし

大地の芸術祭の軌跡
アートを活用して地域の魅力を発信する手法は、新たな地域づくりのモデルとして、「第7回オーライ！ニッポン大賞（内閣総理大臣賞）」や「ふるさとイベント大賞（総務大臣賞）」、「地域づくり表彰（国土交通大臣賞）」、「文化庁長官表彰」などさまざまな賞を受けてきました。近年では海外からも視察や報道関係者が多数訪れるなど、世界的にも高い評価を得ています。

アートの力でまちなかも元気に。お年寄りと女性が鍵
市長―大地の芸術祭で里山の課題解決に向けた「活性化」が見いだされましたが、同じ課題が中心市街地にもあります。



関口 芳史

Yoshifumi Sekiguchi

十日町市長

開催年	入込客数	参加集落	会期中作品数
2000年（平成12年）	162,800人	28集落	146作品
2003年（平成15年）	205,100人	38集落	224作品
2006年（平成18年）	348,997人	67集落	329作品
2009年（平成21年）	375,311人	92集落	365作品
2012年（平成24年）	488,848人	102集落	367作品

回を重ねるごとに多くの人を呼び込み、第5回展では、過去最高となる約49万人の入込客数を記録しました。展示作品数や参加集落数も徐々に増え続けていて、第6回展への期待が高まっています。

いですね。市街地ならではの特徴をうまく生かせるようにしたいです。市街地はハードもちろんですが、ソフトの展開もおもしろいと思います。特にお年寄りが元気になる取組みをしたいと考えています。例えば、ダンス場のようなものを展開して、まちを歩くと影だけが見えるようにしたり、越後妻有の知識と教養を持つているおじいちゃんから、小さい空き家がこの地に関連した貸本屋をやってもらったりできれば面白いですね。もちろんアート化はしますが、このようにお年寄りたちが登場することを市街地で展開したいです。そして、まちのにぎわいは女性の存在も欠かせません。まちのおしゃれな感じはまだ保っているので可能性はあります。例えば「センスのいい女性」と「上品なおじいちゃん」を組み合わせる仕掛けができれば最高です。そうすると他のまちとは違う特色が出て、中心市街地と

しても大地の芸術祭としても相当おもしろくなりますよ。
市長—いい考えですね。十日町市の規模で中心市街地の活性化という大きな課題に挑戦しようとする市町村はあまりありません。国も注目していますし、成功したら全国的にもモデルとなることでしょ。北川さんからはこの取組みにアートの視点や感性でエネルギーを与えていただきたいと思います。

里山もまちも、これからは人の魅力を引き出すこと

市長—十日町市は「きもの」の産地ですが、きものは単に着るだけでなく、着る前の準備やコーディネート、そして着終えた後の片付けなどたいへん多くの手間がかか

ります。この不便さに価値観を見いだし、昔を思い出しながら、また愛おしさを感じながら豊かな時間を楽しむ人もいます。まさにきものを愛する人が増えてきていると思うのですが、その手間ひまかける過程は、作品づくりと似ているかもしれませんね。

北川—今何って思ったことは、準備など一連のプロセスを使った展示やお芝居などを作品化するとかなりおもしろいですね。メーカーなども全て含めて見せることができたら良いと思います。第6回展はそれをやってみたいですね。私は、スノーワーカーズ・バレエという除雪車によるパフォーマンスが好きです。予想できなかった風変わりな点が魅力的です。きもの話も、想像ができないほど「あつ」と言わせるものを考えられたらお



もしろいですね。人がカッコよくなることをもって考えたいです。今までは里山でしたが、今後は人の魅せ方が重要です。

市長—スノーワーカーズ・バレエを見たいという人は今でもたくさんいますね。全てがカッコいいと私も思います。すばらしい点は、豪雪がなければ培われなかった技術であるということです。難しいことを当たり前のようにやってしまう。そんなところに、こへび隊などこの地域に興味を持つ皆さんは尊敬の念を持っているのではないのでしょうか。除雪作業とか田舎仕事とか、里山で生きてきた技術や知恵などが、若者の世界と違うところで際立つのです。

北川—里山で生きる人々と、その生きるカッコよさがよく分かりますが、中心市街地だとそれがなかなか見えづらいです。どのようなカッコよさがあるのか僕も勉強しなければいけません。

市長—例えば、ある機屋の社長さんですが、織物が本当に好きで、出機の織機が壊れたら自ら直していくという、根っから物づくりが

里山と同様に、まちなかも元気にしたい。 人のパワーは確かに存在します——市長

「きもの」「女性」「お年寄り」 中心市街地での作品のコンセプトに——北川

好きな人もいます。そのように産業分野で歴史的・文化的な知恵を持つている人は結構います。それに、地域や仲間と楽しんでいる踊りや唄などのイベントに、さつきものを着こなすおしゃれな女性も多いですよ。50〜70歳代のきものに対するパワーは他にないものがあります。あのパワーにいつも感心しますが、芸術祭にもつながりたいですね。

北川—いいですね。「きもの」「女性」「お年寄り」、中心市街地の方向性が見えてきました。中心市街地が決まらなと公募も発表しにくいので、これでまた進めることができます。

魅力を経済価値につなげる

市長—経済的な効果もうれしいことの一つです。大地の芸術祭が、日銀新潟支店の企業短期経済観測調査で芸術祭会期中の県内経済に好影響を与えたと、評価し

「Roots」名産品リデザインプロジェクト」とは

第4回大地の芸術祭の共同企画として開始。越後妻有地域の大地が育んだ名産品を「妻有を支える根っこRoots」に見立てた取組みは、地域の魅力を最大限に生かし、地元の名産品の包装・パッケージをアートの力で新たにデザインし直して商品化する試みです。

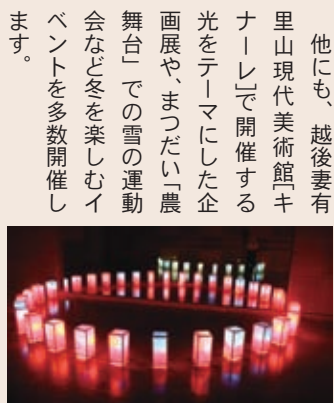


国内の若手クリエイターと地元企業が力を合わせて生まれ変わったパッケージにより、売り上げが20倍に増大する商品や、国際的なデザイン賞を受賞する商品が生まれるなど、大きな成果をあげています。



冬のアートプログラム・ 越後妻有雪火花

夏の芸術祭だけでなく冬の越後妻有の魅力掘り起し、通年での観光誘客を目指して平成22年から始まった冬のアートプログラム。3月1日(土)には、多数の花火で冬の信濃川と真つ白な雪原を一瞬浮かび上がらせる「越後妻有雪火花」を初めて開催します。メイン会場のナカグリーンパークでは、その花火を眺めることができるほか、多数のLEDライトで作る光の花畑や音楽火花も楽しめます。



他にも、越後妻有里山現代美術館「キナレ」で開催する光をテーマにした企画展や、まつだい「農舞台」での雪の運動会など冬を楽しむイベントを多数開催します。





地域づくりの根本を考える チャンスをもたらえたことに 感謝したい——北川

でもらったことは誇れることです。また、「Room's」商品は、パッケージをアート化することで、今まであった妻有の特産品に新たな価値が加わり、大幅に売り上げが伸びています。今後も商品やその他の魅力を経済の活性化に結びつけたいと考えていますが、次なるお考えはありますか？

北川— 今後は、食べ物をより前面に出すことにトライしたいです。例えば、首都圏とは短時間で往来できるの

で、こちらで調理した食を提供することは十分にチャンスがあります。東京は水がおいしいなく、食材のおいしさを引き出すことができないので、こちらで調理することは魅力的でしょう。

市長— 十日町市の食の質は高いですからね。自信を持ってお勧めできると思います。

北川— 食べ物は大きな財産であり強みです。地域づくりに生かすべきですが、当たり前だったこともあり、その魅力を発信する力が弱かったように思います。食は、「農の御膳」がイメージの一つですが、そこに先ほど市長がお話ししたきものの女性のパワーを生かすなど、今まで表舞台に登場しなかった人たちが、光を浴びて生き生きし始めると良いですね。

雪を武器に。食やおもてなしと合わせて展開したい

市長— キナーレやまつだい「農舞台」で開催している、冬のアート展も越後妻有の特徴の一つで、年

間を通した「大地の芸術祭の里」としての取組みが充実してきています。そして、今年3月1日には、「雪花火」が企画されていて、また一つ、冬の十日町市の楽しみが増えますね。このように、当地の大きな課題の一つである雪を活用できれば素晴らしいですね。

北川— この雪を武器にしようと思っています。そこで、多くの作家から越後妻有の冬を訪れてもらい、知ってもらうことから始めます。雪と灯りがとても合うので、キナーレも照明をうまく使いながら見せるようにしたいですね。「雪花火」での、LEDや花火もそうですが、冬や雪の美しさを感じてもらえるようにします。そして、長い冬の間は、先ほど話したおいしい食べ物とおもてなしが際立ちます。これを雪見御膳という形で掛け合わせたいです。丁寧に伝えていければ、もっと脚光を浴びるのではないかと考えています。

第3章

**将来展望を語る。誇りに思う
越後妻有**

21世紀の美術・地域の在り方を示せる地域に

市長— 建築も注目されていますね。ある雑誌の代表的な現代建築のセレクションでは、新潟県からは十日町



**大地の芸術祭・越後妻有を誇りに
思っています**

市長— そのようなものが一つでも二つでもあることが誇りですが、この越後妻有には、それだけたくさんさんの財産があるということですね。最後に、北川さんにとっての大地の芸術祭・越後妻有とは何でしょうか。

北川— 越後妻有に関わるまでは、立川市など都市型アートを手掛けてきましたが、大地の芸術祭は、地域づくりの根底から向き合わなければいけませんでした。構想から早20年近くなりますが、取組みを進めること自体が自分自身の勉

強になりました。地域づくりの根本を考えるチャンスをもたらえたと思っています。大地の芸術祭がない人生を考えたら、寂しい気持ちになりますね。世の中の本質的な部分と関わったという思いで感謝しています。美術全体に大きな影響を与える大地の芸術祭・越後妻有を誇りに思います。

市長— 北川さんの飾らないお話を聞けてうれしいです。今後の構想なども話し合うことができて、これからの展開が楽しみになってきました。大地の芸術祭のますますの飛躍に向けてがんばっていきましよう。本日はありがとうございます。

市内の建物3点のみが選ばれました。世界的にも著名な建築家の作品が越後妻有にたくさんあることは、すごいことですね。キナーレも以前とはずいぶん変わりました。

北川— 現代建築において、この地域はメッカになるでしょう。キナーレはキナーレの良さがあり、今回の冬の企画展のように変化を生み出すことができるようになっていきます。きもののプロセスをみせる作品もキナーレで展開できるかもしれません。今、新築がなかなかできない中で、リニール型美術館としてのモデルになれると思います。



こへび隊に入ろう！ 地元サポーターになろう！

問合せ先
観光交流課
芸術祭企画係
☎757-2637



今や、世界から注目される取組みとなった大地の芸術祭。この芸術祭の支えの一つとして、「こへび隊」と「地元サポーター」の活動があります。

芸術祭当初から、活動していた「こへび隊」は、第5回展時には1,246人が登録し、延べ2万人以上が活動してきました。こへび隊だった人が作家になったり、社会人として違う側面から協力してくれたり、多角的にも大切な存在です。

こへび隊 & 地元サポーターのお仕事
こへび隊・地元サポーターの皆さんは、大地の芸術祭に関わる次のような活動をしています。お試し参加や期間限定の参加も大歓迎です！気軽に申し込み先に連絡してください。

①作品メンテナンス
これまで作られた現代アートの恒久作品が約200点あります。妻有に足を運んでくれる来訪者が楽しく気持ち良く作品を見たり触れたりできるように作品の管理・掃除・修理を手伝います。



地元サポーター

市内や近隣市町村など、地元の皆さんが登録しています。こへび隊の活動に加え、こへび隊や作家の送迎など、地元の人にしかできない活動もあります。前回の芸術祭から39人が登録していて、活動がますます広がっています。



第5回展があった平成24年に約50年ぶりに故郷・十日町市に帰ってきて、サポーターになりました。改めて素晴らしい場所だと感じましたが、それを教えてくれたのは大地の芸術祭でした。サポーター活動は、普段話することができない地元の人・作家・こへび隊の皆さんと交流ができることが魅力の一つです。お客さんは、地元の人とお話したいと思っています。お客さんは、私たちが気付かない地元の魅力を話してくれます。なので、多くの人から地元サポーターとして参加して、交流を楽しんでほしいです。

②イベント企画・運営

「大地の芸術祭」は作品展示だけでなく、通年で多彩なワークショップ・音楽ライブなど数々のイベントを開催しています。そんなイベントの企画・運営にこへび隊と地元サポーターも参加します。



③地域活動参加

集落の伝統行事や各種イベント、維持活動にも参加し、交流を楽しみながら、持続可能な地域づくりを盛り上げる手伝いもしています。



樋熊邦隆さん（新座・69歳）

他にも、会期中には、作品制作サポートやガイドツアーなど活躍の場が増えます。一人でも多くの人の力が必要です。ぜひ参加してください。

僕は、地元に戻ってきて初めて「芸術祭は面白い」と感じたのと同時に、地元を離れる前にこの魅力を経験していたらと思いました。そんなことから若い皆さんからは、芸術祭を「見る」だけでなく、どんな形でいいのでぜひ「参加」してもらいたいです。芸術祭に参加することは、自分の住んでいる地域に誇りを持つことにつながります。その方法の一つとしてこへび隊・地元サポーターがあります。ためらっているのでしたら、思い切って仲間になってください。保護者の皆さんも、ぜひ背中を押してもらえたらうれしいです。

こへび隊・地元サポーターの申し込み方法

- ▼こへび隊＝大地の芸術祭の里総合案内所 ☎761-7767
- ▼地元サポーター＝観光交流課芸術祭企画係 ☎757-2637
- ※「こへび隊」「地元サポーター」両方への登録も大歓迎です
- ※市内在住の60歳以上の方が「地元サポーター」として参加する活動は、「たっしやで100」事業の対象です

地元の皆さんとの触れ合いが大好きで参加しています。里山に生きる人の知恵や暮らしぶりは、都会では感じる事ができないので、こへび隊の活動でそういったものに触れるたびに感動します。十日町市の皆さんの中にも「十日町市を盛り上げたい」「十日町市を元気にしたい」と思っている人たちがいると思います。ぜひ仲間になって、地域を元気にする活動を一緒にしてほしいです。

こへび隊

市内はもちろん、首都圏を中心に多くの人が登録しています。越後妻有のほか、東京でもミレーティングや宣伝活動を行います。活動を通じて地域間・世代間の交流ができることも魅力の一つです。



大滝祐哉さん（東京都・22歳）
林田真季さん（東京都・29歳）
牧ゆうなさん（東京都・23歳）

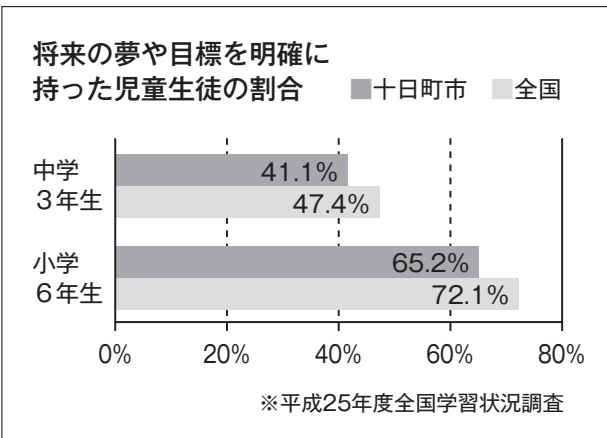
NPO里山協働推進機構
岡村一成さん（関根・34歳）

小中一貫教育 つながる 小学校中学校④

子どもの現状と課題その 4 将来の夢や目標

将来の夢や目標を明確に持っている児童生徒の割合が全国と比べて低い現状です。

将来の夢や目標は、学習意欲の源です。子どもたちが夢や目標を持てるよう、学校でのキャリア教育を充実させるとともに、家庭・地域でも大人が働きかけ、子どもに夢を持たせる環境づくりが必要です。



子どもの夢や目標は、学習意欲の源です。子どもたちが夢や目標を持てるよう、学校でのキャリア教育を充実させるとともに、家庭・地域でも大人が働きかけ、子どもに夢を持たせる環境づくりが必要です。



松之山中学校生徒による募金活動

【3つの指導計画】

- ①教科に関する指導計画
- ②不登校対策を含む心の教育に関する指導計画
- ③総合的な学習の時間に関する指導計画

全中学校区が3つの指導計画を作成し、小中一貫教育の取組みを進めています

小中一貫教育での取組み

各中学校区では、児童生徒の実態に合わせ、中学校区の目指す子どもの姿を設定し、3つの指導計画を作成して学習指導や生徒指導を行います。これにより、小・中学校が9年間で一貫した目的を持って子どもを育てることができま

松代中学校区では、「②不登校対策を含む心の教育に関する指導計画」と「③総合的な学習の時間に関する指導計画」を一つにまとめ、道徳や人権を学ぶ心の教育と、地域や職業を知る総合学習でのキャリア教育を効果的に関連させ、系統立てながら、地域ぐるみで夢や目標に向かって努力する子どもの育成を目指しています。

キャリア教育を心の教育と総合学習の両面から指導する計画ができました

小中一貫教育では 小学校と中学校、そして学校と保護者・地域がつながり、共に子どもたちを育む教育を目指しています。

出演者の追加と各種募集・案内をお知らせします

●問合せ：十日町雪まつり実行委員会事務局 ☎757-3100

十日町雪まつり雪上カーニバル

②2月15日(土)午後5時～

④城ヶ丘ピュアランド特設会場

追加出演者決定！

ひととよう 一青 窈 *Hitoto Yō*

2002年シングル「もらい泣き」でデビュー。5枚目のシングル「ハナミズキ」が大ヒットを記録。映画や舞台に出演するほか、詩集「みんな楽しそう」を発売し活動の幅を広げている。現在、話題の映画主題歌「霞道」をiTunes他で好評配信中。

ボランティアガイド募集

事前に講習会を開催しますので気軽に参加してください。

- 活動日＝2月15日(土)・16日(日)
- 活動場所＝JR十日町駅東口案内所ほか
- 対象者＝おもてなしに意欲のある健康な人
- 業務内容＝観光客からの問い合わせの対応
- その他＝前日に雪の芸術展作品を見学する予定
- 申し込み締め切り＝1月24日(金)
- 申し込み方法＝事務局に電話で申し込み

ツマリアンボール出場チーム募集

3チーム同時に対戦する雪上バレーボール大会の出場チームを募集します。

※応募多数のときは抽選

- 開催日＝2月16日(日)
- 会場＝コミュニティひろば（十日町高校グラウンド）
- 参加費＝1チーム4,000円
- 申し込み締め切り＝1月30日(休)午後5時
- 申し込み方法＝申込書（事務局に配置。ホームページからも入手可）を事務局へ郵送または持参。ホームページからの電子申請による申し込み可

十日町きもの女王コンテスト2014有料観覧席の案内

コンテストを間近で観覧できる有料席で、女王を決める一般審査員としての投票券付きです。

※当日も、先着順で一般審査員を募集します

- 開催日＝2月16日(日)午後1時～
- 会場＝クロステン
- 料金＝1,000円（一般審査員投票券付き）
- 有料席定員＝約50席※先着順
- 申し込み方法＝事務局に電話で申し込み

- 申し込み先：十日町雪まつり実行委員会事務局（本町分庁舎内） ☎757-3100
- ホームページ：http://snowfes.jp/
- 電子メール：snowfes@city.tokamachi.lg.jp

高齢者が健康で、元気に楽しく交流する施設ができました

●問合せ：松之山支所市民課 ☎596-2169



平成26年1月4日(土)、松之山天水越地内に、新たに「十日町市高齢者憩いの家」がオープンしました。同施設は、主に松之山温泉を引き込んだ入浴場・交流室・冬期共同住宅からなる、高齢者が健康で、元気に楽しく交流することを目的とした施設です。

温泉・交流室

共同住宅で暮らす人はもちろん、市民や市外の人も利用できる施設です。温泉で体を温めて、交流室で楽しいひとときを過ごしませんか。

■開館時間

① 4月1日～11月30日まで午前8時30分～午後5時(浴室の利用時間：午前9時30分～午後4時)

② 12月1日～翌年3月31日まで午前9時～午後4時(浴室の利用時間：午前10時～午後3時)

■休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日・振休のときは次の平日) 12月29日～翌年1月3日

■利用料

① 市内在住で65歳以上の人 300円(利用する時は身分証などを必ず持参してください)

② その他の人 500円
※団体利用時は、事前申し込みが必要です



冬期共同住宅の台所



交流室



温泉施設

冬期共同住宅

冬期間の除排雪などで、自宅で生活することに不安を抱く市内の65歳以上の人を対象に、安心な暮らしの場を提供するための施設です。※現在は、松寿荘の入居者6人が引っ越し、安全・安心な生活を送っています

■期間

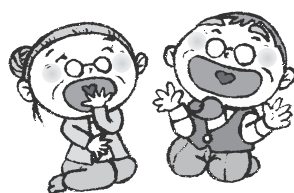
毎年12月1日～翌年3月31日(開始と終了の日が土・日曜日のときは次の月曜日)

■定員

6部屋8人(2部屋は夫婦での入居が可能)※本年度は定員に達したため、入居の募集を締め切りました

■利用料

月額8千円(別途光熱費、入浴する際は入湯税が必要です)



市民一人ひとりがまちづくりの主役です

●問合せ：企画政策課協働推進係 ☎757-3693

ここがポイント

素案の中には、「市民は、相互に尊重しながら自らの言動に責任を持ってまちづくりへの参画に努める」という条文があります。これは、「私たちのまちを、暮らしやすいまちにするために、自ら責任を持って主体的にまちづくりに参画しませんか」という熱い呼び掛けを、表現したものです。

市民の権利

市民の役割

素案には、まちづくりの主役である市民が必要とする権利、まちづくりに関わる人たちに求めたい役割をそれぞれ盛り込んでいます。住みよい十日町市を実現するためには、権利が尊重されることと同時に、もう片方の担うべき役割がバランスよく保たれていることが大切と考えています。

市民のまちづくりへの参画

十日町市のまちづくりを進めるうえで、「主役は市民一人ひとりであり、そして、多くの人たちから応援団になってもらいたい」、素案はこうした思いを土台としてまとめられています。

遠藤昭一さん(新座2・71歳)

遠藤昭一さん(新座2・71歳)

活動報告

11月8日(金)に市民活動ネットワークひとサボと「まちづくり基本条例素案」について意見交換会をしました。会では、素案に対する率直な感想や意見があり、条例の生かし方を考える貴重な機会となりました。「育てる会」では、まちづくり基本条例素案に対する市民の皆さんの声を聞かせてもらいたいと考えています。疑問・意見など、何でも結構ですので気軽に連絡してください。



連絡先

とおかまち流まちづくり条例を育てる会

ホームページ：<http://jyoureikun.wordpress.com/> 電子メール：jyoureikun@gmail.com

今回は、度重なる災害を経験してきた十日町市の「危機管理」について、素案にどのような形で表されているかを紹介します。





服部 愛夕さん（笹之沢・28歳）

県内の大学卒業後、住みやすい十日町市での就職を希望して入社。現在6年目で営業部門で活躍中。

若者×若者 キラメキワーカーズ

語る 仕事・会社・十日町市への思い

十日町市の仕事人

■問合せ

産業政策課

☎757-3139



竹内 智保さん（寿町1・32歳）

県外の大学卒業後、モノづくりを希望して入社。現在8年目で自治体向けのシステム開発を担当。

昭和とおかまち

No.58

■撮影時期：昭和55年11月24日

■撮影場所：浦田診療所付近

浦田診療所に新しい医師として、韓伯堦^{かんはくくん}さんが着任。この日、夫人と共に来町した韓さんを出迎えるため浦田診療所近くに多くの人が集まりました。韓さんは、出迎えた人たちを前に「ここを第二の故郷と思い努力します」と挨拶しました。写真から地域の人たちの歓迎ぶりがうかがえます。



浦田診療所と韓医師

■問合せ：松之山支所地域振興課 ☎596-3131

情報セキュリティと多角的な満足度向上に配慮

服部さん―お客様の大切なデータをお預かりしたときは、お客様からの信頼を失わないよう、情報セキュリティに細心の注意を払っています。

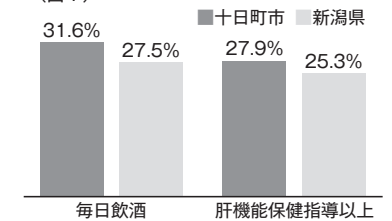
竹内さん―納品したシステムの先には、それを利用する市民の皆さま

服部さん―OA機器・周辺機器の販売やネットワーク構築など、お客様の抱える問題を見つけ出し、最適なシステム環境を構築する業務に携わっています。お客様と接する機会も多く、頼られたり適切なサポートができたとき、とてもうれしいです。

竹内さん―主に自治体の電子調達（工事などの入札・開札の作業をパソコンで処理する）システムなどの開発を担当しています。住民記録・税のシステムとは異なり、携わったシステムが実際に運用されている様子がインターネットで閲覧できたり、納品先から評価を受けたりしたときにやりがいを感じます。

成果が評価され、適切なサポートでやりがいを実感

※平成22年度特定健診等結果報告より（図1）



要です。毎日飲酒、肝機能保健指導以上、さしい飲み方を意識することが必要です。

市が行った特定健診の結果、県と比べ、肝機能検査で注意を要する人の割合が高くなっています。また、お酒の飲み方を比較しても「毎日飲酒する人」の割合が高いです（図1）。毎日多量に飲酒していると、肝障害やがんなどのさまざまな病気を招くばかりではなく、アルコール依存症やうつ病など精神的障がいを引き起こします。日頃から、体にやさしい飲み方を意識することが必要です。

十日町市民は肝機能異常が多い

楽しくお酒を飲むための秘訣



問合せ

健康支援課成人保健係
TEL757-9764

体にやさしい飲み方5か条

① 楽しく飲みましょう―ヤケ酒は飲み過ぎのもとです。ストレス解消はお酒以外の趣味やスポーツがお勧めです。
② 食べながら飲みましょう―食べ物が胃腸からのアルコールの吸収速度を抑えます。
③ 自分の適量で―1日に飲む量はビールで500ミリリットル、日本酒で1合程度が適量です。
④ 週に1日は休肝日を―同じ酒量でも毎日飲む人は、間をあけて飲む人より肝障害を起こしやすいです。
⑤ 1年に1回は健診を―肝臓は沈黙の臓器です。早期発見のため必ず健診を受けましょう。

飲酒による慢性の病気は、10年以上続けることで現れます。お酒に強いから、若いから大丈夫という油断は禁物です。5か条の中から一つでも取り組んでみましょう。



健康とおかまち21
取り組み目標

アルコールを飲まない日を週1日は設けます。未成年者にはアルコールを勧めません。

仕事環境を支援するフレックスタイム制度が好評

竹内さん―社員の平均年齢が30代後半なので、コミュニケーションが取りやすく、社員間の情報共有がうまく取れています。

服部さん―フレックスタイム制度があり、銀行や病院へ行くときなどに利用しています。社内も取得しやすい雰囲気があるので、子育て中の社員にはとても好評です。

協力企業

■(株)オスポック

・ソフトウェアの設計・開発
・十日町市珠川
・従業員数112人
・☎750-2020

専門的で独創性のある技術力を駆使して、お客様が望む最適のシステムを構築し提供しています。



求人あり

26年3月入校生募集
事務系デュアルシステム科

日 3月11日(火)～8月8日(金) 平日午前9時30分～午後4時10分

会 十日町パソコンカレッジ (昭和町1)

¥ 無料※テキスト代など自己負担あり

× 2月24日(月)

申 ハローワーク十日町

問 県立魚沼テクノスクール (☎025-794-24)

11日(火)・13日(木)※全日程講習時間…午後6時～8時30分

¥ 各コース2、400円

定 各コース10人

内 整備士1級検定受験のための学科対策 (①エンジンコース、②シャシコース、③故障診断・環境保全コース ※3コース連続の受講が基本。単独コース受講は応談(共通))

× 1月27日(月)※申し込み多数のときは抽選

会・申・問 県立上越テクノスクール (☎025-545-2190)

子育て

ハローパパママ学級

健やかな赤ちゃんを産み、育てていくための教室です。2日目はパパのおむつ交換練習などもありますので、ぜひパパも参加してください。

日 2月7日(金)・21日(金) 午後1時15分～3時30分

会 千手中央コミュニティセンター

対 4～8月出産予定の妊婦とその家族

× 1月31日(金)

申・問 健康支援課母子保健係 (☎757-9759)

スポーツ

ゲートボール初心者講習会

日 2月2日(日)・9日(日)・3月23日(日)・30日(日) 午前9時～11時

会 市総合体育館

¥ 無料

持 防寒具・動きやすい服装・

トオコンseason 4 『本選会』 結果発表

12月14日(土)、県内外の大学生が市の特色を生かしたビジネスプランを競い合う、十日町市ビジネスコンテスト『トオコンseason 4』本選会がクロステンで開催されました。今回は、同点3位が2チームと白熱したり、地元高校生がすばらしいプレゼンテーションを行ったりと、今までにないほどの盛り上がりを見せ、140人以上が詰めかけた会場は感嘆の声であふれていました。審査結果は次のとおりです。(プラン名 [チーム名/所属大学・学校])

【最優秀賞】

・ベジブリッジ～野菜は人を繋げる架け橋～
[グリーン☆パンダナ/日本大学]

【第2位】

・思い出を彩る振袖づくり～あなただけの最高の成人式を～
[T.S.T / 長岡造形大学]

【第3位】

・十日町オーダーメイドランジェリー “Kimono Linge”
[きものらんじえ/大妻女子大学・日本大学]
・ゲストハウスtokamachi [チーム西風/東京海洋大学]

【審査員特別賞】

・十日町の着物生地を使ったスマホカパーの提案
[2年5組チーム/十日町高等学校]

問 産業政策課産業企画係 (☎757-3139)



グリーン☆パンダナ 斎藤友恵さんの発表

提案されたプラン(予選会を含む)を事業化するときには、その経費の一部を支援します。詳しくは左記に問い合わせるか、公式ホームページ (<http://www.toocon.jp/>) をご覧ください。

日 日時 休 休館日 会 会場 対 対象者 ¥ 料金 定 定員 内 内容 持 持ち物 講 講師 他 その他 × 締め切り 申 申込み 問 問合せ F A X

きものリフォームファッションショー
きものパーティー

日 1月18日(土) 午後6時30分※開場6時

会 クロステン

内 きものリフォームファッションショー、ソプラノ歌手による独唱、ベンチャーズバンド・スコップ三味線のライブ

¥ 2千円(お弁当・1ドリンク付き)

● チケット取り扱い先…クロステン・本町分庁舎・千手中央コミュニティセンターなど

問 きものパーティー実行委員会
会・樋口 (☎090-7200-3700)

募集

委員募集
十日町市介護保険運営協議会

介護保険の運営などを審議します。

● 募集人員…5人(十日町・川西・中里・松代・松之山地域各1人)

● 応募資格…4月1日時点で満40歳以上(介護保険被保険者)の市民で、介護保険に関心があり、1年間に4回程度開催される協議会(平日開催)に出席できる人

● 委嘱期間…4月1日～平成

平成26年度
十日町市奨学生募集開始

募集要項や願書の様式などは教育委員会(川西庁舎内)・子育て支援課・市内中学校・郡市内高等学校で配布しています。詳しくは12月25日号15ページをご覧ください。

× 2月28日(金)※必着

申・問 教育総務課庶務係(川西庁舎内 ☎757-3118)

会 員 募 集
ソイ・ヒタナフラメンコ教室

フラメンコ舞踊をゆつくり楽しみながら習得できます。

26年度生徒募集
十日町市高等職業訓練校

全教科とも国家資格を持った経験豊富な講師が指導します。

● 科目…①建築製図科(2級建築士養成)、②コンピュータ科(パソコン技能全般)、③ワープロ科(ワード入門・応用)、④表計算科(エクセル入門・応用)、⑤経理事務科、⑥測量科、⑦建築科(1級技能士養成)

【初心者クラス】
日 毎週木曜日 午後7時～8時
【シニアクラス】
日 毎週水曜日 午後1時30分～2時30分

会 宮元屋商店(土市3)
¥ 1か月3千円(4回)

持 運動ができる服装、ヒールが安定しているパンプス、タオル

他 直接会場に来てください。
2月28日(金)まで入会金無料です

問 ソイ・ヒタナフラメンコ教室・入沢 (☎090-1123-4314)

広告掲載

地域と暮らしと人をデザインする

謹賀新年

旧年中は大変お世話になりました。本年も皆様にとって良き一年でありますように心よりお祈り申し上げます。

www.facebook.com/10city.flowerhome

十日町市中条甲 921 番地 1 株式会社 フローホーム

お問合せ 0120-550-208

※市では広告を募集しています。詳しくは秘書広報係まで

受付時間…午前8時30分～午後5時※土・日曜日、祝日除く

× 3月25日(火)

申・問 入校申込書(建築製図科は証明写真1枚)を十日町市高等職業訓練校(☎752-3803)

受 講 生 募 集
在 職 者 訓 練 (技 能 向 上 コー ス)

日 ①2月4日(火)・6日(木)・10日(月)・13日(木)、②2月18日(火)・20日(木)・25日(火)・27日(木)、③3月4日(火)・6日(木)



瀧澤 義久さん（四日町新田1・100歳）

元気なお年寄りを紹介し、健康の秘けつなどをうかがいます。

わがん あいご 和顔愛語 ～はつらつ おじいちゃん～

17

長生きできた理由を「くよくよせず、明るくしていたこと」と、言葉どおりの笑顔で話す義久さん。釣りが趣味で「釣れた瞬間がいいね。大きければなお」と目を細めます。サイズの大きなコイやナマズがいるという、宮中がお気に入りの釣りポイント。孫やひ孫も釣りが好きで、春になったらまた一緒に釣りに出かけるのを楽しみにしています。

我が家の

我が家のイクメン☆カジダン募集中！家事育児に取り組んでいる写真と紹介文をお寄せください。
申込み・問合せは企画政策課秘書広報係 ☎757-3112

イクメン☆カジダン

22

「イクメン」とは育児を楽しんでいるメンズ（男性）、「カジダン」とは家事に積極的な男性のことです。そんな我が家自慢のイクメン・カジダンを紹介します。

わが家の

お父さん・関谷 直明さん（松代・47歳）



お母さんの仕事の帰りが遅いので、3人の子供の面倒を全て見てくれています。土日や休みの日は必ずどこかへ連れて行ってくれて助かります。（お母さんより）

▼まつだい農舞台の裏手、洪海川を挟んだところに「西洋料理店 山猫軒」という作品があります。宮沢賢治の『注文の多い料理店』を具現化したもので、扉をくぐると物語の世界に迷い込んだような気分になります。賢治は37年の短い生涯のうちに、八百余篇の詩や百余篇の童話など数多くの作品を制作しています。「永遠の未完成これ完成である」。賢治は、一度完成させた作品でも全面的に書き換えたり、発表された作品でさえも、手を加えたりしていたといわれています。そんなことを考えていると、作品一つの重さに感慨深くなります。洪海川ほとりの散歩コースは絶好の癒しゾーン。
まさに作品の一つひとつが地域の魅力を引き立てています。



(鈴)



わが家の

パパ・草村 大介さん（室野・36歳）

子どものお世話を何でもしてくれる優しいパパです。子どもたちもパパと一緒に大好き！これからも、いっぱい笑っていっぱい遊んで楽しく過ごしましょう！（ママより）

あすこたね

明けておめでとうござい
ます。本年もよろしく願
います。
▼本年も中里地域担当として管内の魅力を発信しますので、どうぞよろしく願っています。
▼私は、学生時代からの仲間と市内の温泉に「年明け温泉」に行くことが恒例行事で、今年も学生時代に買ったように楽しく過ごしました。
▼今年も各地で冬のイベントや祭りが盛大に行われます。特に注目したいのは特集内でもお伝えした「越後妻有 雪火火」です。さらに翌週には中里地域で雪原カーニバルが行われます。ぜひ、温かい格好でお越しください。冷えた体は市内の自慢の温泉で温めてくださいね。



(船)



10月26日開催の第1回上映会の様子。映像を制作した民族文化映像研究所の中川諒美さん（同理事）を迎えた会に、市内はもちろん、柏崎市・三条市・新潟市などの県内、群馬県・東京都・名古屋市など県外から70人を超える人たちが参加し、会場のまつだい郷土資料館は熱気に包まれました。今後も同館で上映予定です。



実行委員会メンバーの皆さん。20～30代のボランティアスタッフも参加しています。若い世代の上映サポーターを募集中です。



チラシの力強い題字は、相沢正平さん（小谷・62歳）の協力です。

■facebookページ：<https://www.facebook.com/himeda.tokamachi>

市民の力が結集され、姫田忠義さんのドキュメンタリー映画の上映会が始まりました。全119本を6年かけて上映する予定です。姫田さんが伝えたいことは、脈々と受け継がれてきた農山漁村での生きる知恵と住民の思い。この大切さを共感した市民や団体が協力し合い連携することで、更なる活動の発展につなげることを目指します。

◆問合せ・事務局（ひとサポ内） ☎761-7444



上映後の、まつだい農舞台・里山食堂特製の料理を囲んだ、ユニークなゲストや多彩な参加者との交流会も好評です。

映画を通じて生きる知恵を伝えたい

姫田作品十日町上映会実行委員会

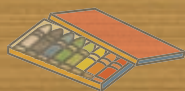
十日町市に残る里山暮らしの良さを市内外に発信したい思いから、昨年8月に実行委員会を立ち上げました。特に、市内の若い世代に実感してほしいため、高校生以下の観賞を無料にしています。

「東京でも、日本の農山漁村の暮らしを記録した姫田忠義作品の上映会はありませんが、自然に恵まれたこの松代地域から発信し、継続することに意味があります」と、代表の木暮茂夫さん（中立山・55歳）は話します。木暮さんは、12年前に東京から移住し、かやぶきや米作りをして暮らしています。「姫田作品の撮られた昭和40～50年代の地方の暮らしの、自分に誇りを持った生き方が、今こそ求められています」と、全作品上映に意欲を燃やします。

市内に残る貴重な映像や資料の展示、地元ゲストの解説も加え、毎回来しめながら伝える工夫をしています。

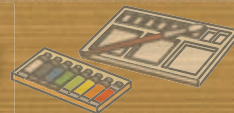
次回は、3月15日(土)。上映会に参加して、生活を改めて見つめ直すきっかけにしませんか。

活動を紹介したい団体を募集しています
ひとサポ ☎761-7444



ジュニア芸術祭

奴奈川小学校
103



西潟

優弥さん (1年)

たのしかったさつまいもほり



さつまいもほりをしているところをかきました。ほったさつまいもで焼きいもをしたり、スイートポテトを作ったりして食べました。おいしかったです。

永井ひかりさん (2年)

かさこじぞうのじざいま



かさこじぞうの形に紙を切って、ローラーで色をつけてスタンプしました。雪をカラフルにして、じぞうさまがよろこんでいるようすが伝わるようにしました。

永井さくらさん (3年)

キャンプのカレー作り



奴奈川小学校最後の「大すきキャンプ」の絵をかきました。全校のみんな一人一人がやっていることが上手にかけて良かったです。

米持

巧さん (4年)

パソコンを打つねこレナニャン



手足の先を小刀でけずって、ねこっぽくしました。手足のつけ方も動かせるように工夫しました。木でパソコンも作りました。

西潟史有香さん (5年)

校庭のさくらの木



校庭のさくらの木は、毎年きれいな花を咲かせます。学校が閉校になっても、いつまでも花を咲かせてほしいです。

若山

優菜さん (6年)

マイケル



ペンがたくさん入る大きなペン立てを作りました。出来上がったペン立てに愛着を込めて、「マイケル」という名前をつけました。